

学長 就任 挨拶

この度、2019年4月1日付で琉球大学第17代学長に就任した西田睦です。琉球大学の強化・発展に全力で努める決意です。

いま世界では、急速なグローバル化やIT化の進行によって、人々の暮らしや政治経済の仕組みが大きく変わり始めています。それらの変化は、国や地域を越えて人々の叡智を集めて、人類の共通課題を解決しようという地球規模の協働をも生み出しています。日本では、人口減少のなか、私たちの生き方・考え方・学び方・働き方などに大きな変革を迫る知識集約型社会への転換が急ピッチで進んでいます。こうした激変期を迎え、政府、財界、そして広く国民から、知と人材の供給を使命とする大学に対して大きな期待の声とともに、厳しい意見も出されています。これらを正面から受け止め、琉球大学はこの激変の時代における大学の果たすべき重要な役割を自覚し、時代に応じた自己変革を遂げつつ、地域社会、国、世界に対してより大きく貢献していかなければなりません。

本学は、亜熱帯の生態系に囲まれた島嶼域において特色ある歴史・文化を育んできた沖縄に立地する総合的な国立大学であること、先の大戦の灰燼の中から地域の人々の熱望により設立された大学であることといった、他大学にはない明確な特色を有しています。地域に根差し地域のためにという米国の「ランドグラント大学」の精神を強く受け継いでいることも、特筆されるべきことです。こうした特色と「自由平等、寛容平和」という建学の精神や伝統を尊重して活かすことによって本学をさらに発展させ、活力と多様性に富んだキャンパスにしていきたいと思えます。私が思い描く琉大キャンパスの近未来は、多くの海外からの留学生を含む多様な学生・教職員・地域の人たちが賑やかに行き交い、額を寄せ合って自由闊達なディスカッションをする姿がいたるところに見える、そんな場です。

その実現に向けて、まず学生が、地球市民としての確かな知識とともに、それを基礎に現代社会における複雑な課題の解決や、合意形成を導く技能・能力を身に付け、自信と高い志を持って巣立つことができる、学生本位の教育を一層強化します。また、迫力を持った魅力ある教育を展開するには活発な研究が必要であり、本学の研究のさらなる活性化に取り組みます。研究から生み出される新たな知はそれ自体で人類への貢献となりますが、研究成果を地域や社会へ還元して地域や産業の振興に貢献することも大学の重要な使命です。研究成果を地域イノベーションに活かす取組や活動を飛躍的に強化します。また本学は、沖縄県における地域医療と医学研究の拠点でもあります。沖縄健康医療拠点構想のもとに取り組んでいる医学部と同附属病院の西普天間住宅地区跡地への移転事業を、国、沖縄県、関係自治体等と力を合わせて着実に推し進めます。さらに、本学の発展に資するこれらの活動を支えるため、外部資金獲得等を通じた財政基盤の強化や、安心安全で多様な構成員が楽しく協働できる、ハラスメントのない環境の一層の整備に取り組んでいきます。

多様な考えと専門性を持った多彩な構成員や関係者の存在は、総合大学である琉球大学にとってまさに創造性の源です。先の見えにくい激変期に、本学がさらなる変革を遂げ大きく前進するには、構成員の皆さんが自己研鑽し知恵と力を出し合って協働すること、そして地域社会をはじめとする学外の多くの方々との相互理解や連携に基づいて、様々なご協力やご支援を得ていくことが不可欠です。これらのことを本学の改革と前進のためのビジョンと実行プランとして取りまとめ、その実現に向けて先頭に立って果敢に実行していきますので、どうかよろしく願いいたします。

琉球大学第17代学長
西田 睦